

## 災害ボランティア活動の基礎 第2回 「災害ボランティア活動の注意事項について」

災害ボランティアを行ううえで、被災地での行動や、被災された方との接し方には配慮が必要なのをご存知でしょうか。他にも、災害ボランティアの自己責任・自己完結という基本を守るためにも留意していただきたい点をまとめてみました。

### 災害ボランティア活動の注意事項

- ✓ 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。写真やビデオ撮影は、被災された方や被災地の気持を配慮して行い、一斉にカメラを向けるようなことは避けましょう。被災された方が特定できる写真は、その方の了解を取ってからにしましょう。
- ✓ 水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして自己責任・自己完結を原則に被災地に入りましょう。被災地や、被災された方に負担をかけないようにしましょう。
- ✓ 被災地での災害ボランティア活動に参加する際は、自分の行動計画を周囲に事前に説明してから、でかけましょう。（家族の理解も大切です。）
- ✓ 仲間とよく話し合い、一人で仕事を抱えこまないようにしましょう。また、単独での行動は避けるようにしましょう。
- ✓ 例え被災された方に頼まれても、自分や周囲を危険に巻き込むような仕事は引き受けないようにしましょう。
- ✓ 仕事がない場合も少なからずあります。むりやり探すと被災地が混乱します。「待つのもボランティア活動」だと考えましょう。
- ✓ 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう（被災された方は、その地域で普通に暮らしていた私たちとなんら変わらない人です。）
- ✓ 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。（目の前の相手を「被災者」という言葉で一括りにしていませんか？相手はあなたと同じように、一人ひとり異なる背景を持っています。）
- ✓ 必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

出典：東日本大震災支援全国ネットワーク

この景色、あなたはどのように呼びますか？

わたしは「被災地」とは呼びません。

「故郷・わが町」と呼びます。

写真提供：エフエム・プランニング

あなたにとっては「がれき」ですか？

わたしにとっては

「帰るべき我が家」なのです。

写真提供：エフエム・プランニング




「ごみ」なんてひとつもない

わたしにとってはすべて

「かけがえのないもの」

写真提供：富田きよむ氏



ボランティアにとって  
もっとも大切な視点

「被災された方の目線で考える」

例えば、、

「被災地」じゃなく「地名」

「がれき」じゃなく「ご自宅」

「ゴミ」じゃなく「家財」 など

ふとした一言が相手の心を温かくもすれば、  
傷つけることもある。

写真提供：富田きよむ氏